

グリーン・ピックス

北海道立林業試験場

32

絶滅のおそれのある樹木の増殖技術

絶滅のおそれのある生物に関する報告書「レッドデータブック」が国や道でまとめられ、北海道でも多くの生物が絶滅の危機に瀕していることが明らかになってきました。道では、絶滅のおそれのある種を危険度が高い順に、絶滅危機種（Cr）絶滅危惧種（En）、絶滅危急種（Vu）というカテゴリーに分類しています。道内に自生する樹木では、8種がこれらのカテゴリーに、22種がこれらに次ぐ希少種（R）として記載されています。林業試験場では、危険度の高い樹種を中心に保全対策のための研究を進めています。絶滅のおそれのある樹木の植物体での保存などを行なうためには、これらの増殖方法を明らかにする必要があります。そこで実生（写真 - 1、2）や挿し木（写真 - 3、4）による増殖方法について検討した結果、発芽に2年を要するものがあることや、時期別の発根率のちがいなど、苗木増殖のために有益な情報を得ることができました。

（生産技術科）

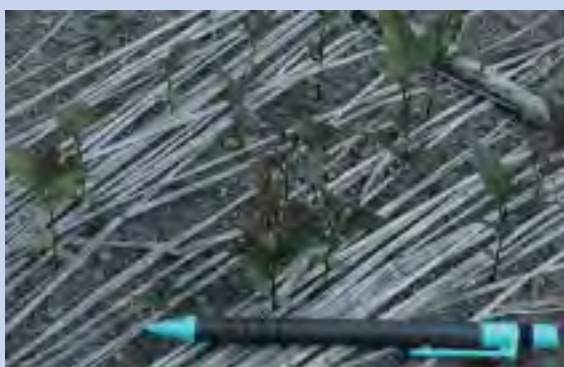


写真 - 1 発芽当年のクロミサンザシ(Cr)の実生



写真 - 2 発芽当年のヒダカミツバツツジ(Cr)の実生



写真 - 3 さし木により発根したリシリビャクシン(En)のさし穂



写真 - 4 さし木により発根したヤチカンバ(Vu)のさし穂